

微生物検査の裾野を広げよう！ 検査技師なら知っておきたい基本のキ ～血液培養検査 基礎・外部委託・応用編～

演題1：外部委託検査における血液培養検査の実際と基礎

坂田 竜二

株式会社ビー・エム・エル 細菌検査部 細菌検査課

血液培養検査は微生物検査において重要な検査の1つである。本来無菌であるべき血液に存在している細菌について迅速に培養同定検査及び薬剤感受性検査を実施することは適切な治療を行うために必要不可欠である。本セッションでは、血液培養の重要性、外部委託先での微生物検査の流れ（検体の提出方法や中間報告～最終報告に至るまでのタイムスケジュール）、薬剤感受性検査結果の解釈（耐性菌の報告について）等の基礎的な部分をお伝えする。微生物検査に従事している方はもちろん、微生物検査を外部委託されている施設の方や微生物検査以外の検査に従事している方にも有益となる情報をお伝えしていきたい。

演題2：市中病院における血液培養検査の実際と活動

金澤 雄大

八戸市立市民病院 医療技術部 臨床検査科

血液培養検査は感染症診療において必要不可欠な検査である。血液培養検査において臨床検査技師が果たすべき役割は大きく二つ、①血液培養陽性時に有用な情報を迅速に医師や抗菌薬適正使用支援チーム（AST）へ提供する、②血液培養検査が適正に実施されているか評価（サーベイランス）することであると考えられる。しかしながら現在の運用方法で良いのか、そもそも何をしたらいいのかわからないなど不安を抱えている施設や、それ以前に微生物検査を検査センターへ委託しているため、血液培養検査にほぼ関わっていない施設も多いのではないかと考えられる。本セッションでは、感染症専門医のいない市中病院での運用方法（報告方法、質量分析装置や遺伝子検査に依らない同定方法）やサーベイランス方法を当院の実例を交えて会場の皆さんと共有する。ディスカッションを経て施設規模に関わらず血液培養検査をより効果的に運用するための好機としたい。

演題3：迅速検査と多職種連携による血液培養検査と治療アプローチ

千葉 美紀子

東北大学病院 診療技術部 臨床検査部門

当院の血液培養検査体制は、365日24時間対応で培養を開始し、陽性ボトルの処理や同定・感受性検査は、平日：8:30～17:15、休日：8:30～12:00に行っている。また、質量分析装置や遺伝子検査装置 (FilmArray、GeneXpert) を活用し、病原体の迅速な特定と薬剤耐性遺伝子の検出を可能にしている。検査費用が高価な遺伝子検査を最大限に活用するためには、迅速な報告と適切な対象選定が重要である。当院では、検査室が主導して遺伝子検査の対象を決定する体制を整えた。これは診断支援 (Diagnostic Stewardship；DS) における“適正な患者”“適切なタイミング”の概念にあたる。一方、血液培養陽性患者のフォロー体制としては、感染症科医師と抗菌薬適正使用支援チーム (Antibiotic Stewardship team；AST) が、平日は毎日、治療の提案を行っている。検査結果を治療に的確に反映させるには、ASの介入方法やタイミングが重要な役割を果たすことから、検査室とASTの連携も意識している。当院の血液培養検査フローを示しながら、抗菌薬選択における遺伝子検査の有用性や他職種連携によるASのメリットについて述べる。迅速かつ確かな医療提供を目指す、当院のDSとASを組み合わせた血流感染症患者へのアプローチを共有したい。